



## 2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2020年1月31日

上場取引所 東

上場会社名 総合警備保障株式会社

コード番号 2331 URL <https://www.alsok.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青山 幸恭

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 (氏名) 岸本 孝治 TEL 03-3470-6811

四半期報告書提出予定日 2020年2月4日 配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2020年3月期第3四半期の連結業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	339,040	4.4	25,517	17.1	26,999	18.2	16,572	19.7
2019年3月期第3四半期	324,710	1.7	21,787	5.6	22,848	4.9	13,850	7.5

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 19,104百万円 (30.8%) 2019年3月期第3四半期 14,602百万円 (△14.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	163.70	—
2019年3月期第3四半期	136.81	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2020年3月期第3四半期	462,095	268,824	52.8	2,410.13
2019年3月期	410,113	257,098	56.8	2,302.38

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 243,990百万円 2019年3月期 233,082百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	31.00	—	35.00	66.00
2020年3月期	—	34.50	—	—	—
2020年3月期 (予想)	—	—	—	34.50	69.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年3月期の連結業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	465,000	4.8	34,600	7.2	36,500	7.7	23,000	3.3	227.19

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は、添付資料P.10「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期3Q	102,040,042 株	2019年3月期	102,040,042 株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	804,856 株	2019年3月期	804,557 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期3Q	101,235,316 株	2019年3月期3Q	101,235,434 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、消費税率引き上げによる個人消費の悪化は各種対応策によって前回増税時より小幅に止まったものの、海外経済の減速等によって輸出が引き続き弱含み、大企業製造業を中心に企業の業況判断がさらに悪化しました。加えて、期中における通商問題を巡る動向、中国経済の先行き、英国のEU離脱をはじめとする欧州経済の混迷、半島情勢や中東情勢に見られる地政学的リスクや中国武漢市で発生したと考えられる新型コロナウイルスの世界的拡大の恐れ等を背景に、景気の先行き不透明感も強まっています。

国内治安情勢につきましては、刑法犯認知件数は年々減少を続けているものの、高齢者・障がい者等を狙った凶悪な犯罪や特殊詐欺、ストーカー犯罪、子どもや女性を狙った犯罪、高齢者ドライバーに起因する交通事故、煽り運転など身近な犯罪や事故が後を絶たない状況です。また、9月以降、台風などの甚大な被害をもたらす自然災害が相次いでいるほか、国際テロ、サイバー犯罪や情報漏えい等、社会を取り巻くリスクは多様化しております。

このような情勢の中、当社グループは、2018年5月策定の中期経営計画「Grand Design 2020」に掲げたとおり、お客様と社会の安全・安心を支える「総合安全安心サービス業」を目指して、多様化・高度化する一人一人のお客様と社会の安全・安心ニーズに応えるべく、セキュリティ事業とその関連事業の進化・深化に取り組んでいます。当社グループでは、ウェアラブルカメラなどのICT機器を装着した警備員「ALSOKハイパーセキュリティガード®」をはじめ、センサーや監視カメラ、ロボットなどさまざまなICT機器を駆使して立体的・複合的に監視する「ALSOKゾーンセキュリティマネジメント®」、会場スタッフ全員が「警備員の目」を持ち、セキュリティ共同体としてネットワーク化されたイベントの安全・安心な遂行を支える「ALSOKスタッフ等連携システム™」等を導入し、より迅速な、そしてより広範囲にわたる警備力の向上とコストの最適化を実現させるサービスの展開を図っております。また、自動運転公道実証実験の遠隔管制業務の実施等、「Society5.0」に対応するセキュリティ事業等の展開（「ALSOK5.0」）を目指し、IoT等新技術の活用に注力しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は339,040百万円（前年同期比4.4%増）、営業利益は25,517百万円（前年同期比17.1%増）、経常利益は26,999百万円（前年同期比18.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は16,572百万円（前年同期比19.7%増）となりました。

セグメント別に見ますと、以下のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より報告セグメント並びに一部の収益及び費用の配分方法を変更しております。前期比較にあたっては、前年同四半期連結累計期間の実績を変更後の区分及び配分方法に組み替えて行っております。

セキュリティ事業につきましては、機械警備業務においては、法人向けサービスとして、侵入、火災、設備等の監視、管理を備えたスタンダードなセキュリティシステム「ALSOK-ST（スタンダード）」、スタンダードな機能に加え、画像監視、出退勤情報等の閲覧、設備の遠隔操作をWeb上で行える機能等を備えた「ALSOK-GV（ジーファイブ）」等により、お客様個々の様々なニーズに対応するソリューションを提供してまいりました。さらに、先進の画像解析技術を活用した画像監視サービスを備えた「ALSOK-G7（ジーセブン）」のサービス提供に向け、取り組みを進めました。

個人向けサービスとしては、住宅向けスタンダードモデルである「ホームセキュリティBasic」に加え、少子高齢化が進む社会に貢献するサービスとして高齢者を見守る「HOME ALSOK みまもりサポート®」等の拡販に努めております。

常駐警備業務においては、人手不足を背景に製造業等の警備業務アウトソーシングや、再開に伴う新築ビルの警備ニーズ等が引き続き拡大しており、人件費上昇を反映した値上げが浸透しつつあります。また、常駐警備の高度化・効率化を実現する新たなサービスとして「ALSOKスタッフ等連携システム™」と警備ロボット「REBORG®-Z」の販売を開始しました。既に様々な導入事例が出ており、大型イベント警備やビル警備等で活躍しています。

警備輸送業務においては、金融機関のATMや事務センター共同化等のアウトソースの受注が堅調に推移したほか、人手不足等を背景とした小売業等からの入（出）金機オンラインシステムの受注が好調に推移しました。

この結果、セキュリティ事業の売上高は265,141百万円（前年同期比2.3%増）、営業利益は27,104百万円（前年同期比13.4%増）となりました。

総合管理・防災事業につきましては、グループ内での連携強化による各種施設の維持・管理・運営に関する総合的なマネジメント業務に取り組んだ結果、建物の総合管理や清掃業務等の受注が堅調に推移し、売上高は49,560百万円（前年同期比16.6%増）、営業利益は4,555百万円（前年同期比13.5%増）となりました。

介護事業につきましては、施設の稼働率向上や、前期のM&Aの効果もあり、売上高は20,882百万円（前年同期比4.6%増）となりました。一方、新規拠点開設や、人件費及び採用経費等の増加の影響もあり、営業利益は339百万円（前年同期比2.3%減）となりました。

また、経済産業省の「キャッシュレス・消費者還元事業」において、警備会社として唯一、B型決済事業者に指定され、QRコード決済サービスの提供にも取り組んでおります。10月には新たにクレジットカードなど多種多様な決済に対応したマルチ決済サービスの提供も開始いたしました。

当業界においても人手不足が深刻化しておりますが、新技術の活用や生産性の向上などで課題を克服し、引き続き拡大する社会の安全・安心ニーズに応えていくことが重要であると考えております。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前期末比で51,981百万円増加し、462,095百万円となりました。当第3四半期連結会計期間における銀行の最終営業日が月曜日だったため、入金機オンラインシステムの運用における売上金の取扱額が、直前の金曜日から日曜日の3日間に対応する形で増加したことにより、警備輸送業務用現金が41,829百万円増加したことが主たる要因であります。このほか、前払費用等のその他の流動資産が7,028百万円、退職給付にかかる資産等のその他の投資その他の資産が2,286百万円増加したことも、総資産の増加に寄与しております。

負債の部は、前期末比で40,255百万円増加し、193,270百万円となりました。入金機オンラインシステムの運用における売上金の取扱額増加に対応した結果、短期借入金が42,062百万円増加したことが主たる要因であります。

キャッシュ・フローの状況につきましては次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の営業活動の結果増加した資金は22,861百万円（前年同期比36.6%増）であります。税金等調整前四半期純利益により26,758百万円、減価償却による資金の内部留保により11,135百万円の資金が増加した一方、法人税等の支払により10,124百万円、警備輸送業務に係る資産・負債の増減により3,222百万円、仕入債務の減少により1,861百万円の資金が減少した結果であります。

なお、警備輸送業務に係る資産・負債の増減額には、警備輸送業務用現金及び短期借入金のうち警備輸送業務用に調達した資金等の増減が含まれております。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の投資活動の結果使用した資金は11,495百万円（前年同期比9.5%減）であります。有形固定資産を8,923百万円、無形固定資産を4,239百万円取得したことが主たる要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第3四半期連結累計期間の財務活動の結果減少した資金は9,604百万円（前年同期比156.8%増）であります。短期借入金の増加（純額）により2,571百万円の資金が増加した一方、配当金の支払により7,036百万円、リース債務の返済により2,918百万円、長期借入金の返済により2,248百万円の資金が減少した結果であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期の連結業績予想につきましては、2019年5月10日に公表した連結業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	53,875	54,987
警備輸送業務用現金	72,546	114,376
受取手形及び売掛金	54,926	50,613
有価証券	361	823
原材料及び貯蔵品	5,488	6,536
未成工事支出金	371	1,165
立替金	5,986	7,315
その他	14,737	21,765
貸倒引当金	△247	△255
流動資産合計	208,047	257,327
固定資産		
有形固定資産	89,442	90,431
無形固定資産		
のれん	20,952	19,767
その他	12,107	12,022
無形固定資産合計	33,059	31,790
投資その他の資産		
投資有価証券	41,649	42,330
その他	38,356	40,642
貸倒引当金	△441	△427
投資その他の資産合計	79,564	82,545
固定資産合計	202,066	204,767
資産合計	410,113	462,095
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	22,993	21,498
短期借入金	15,269	57,331
未払法人税等	5,355	3,392
引当金	2,226	1,238
その他	46,660	47,965
流動負債合計	92,505	131,426
固定負債		
社債	9	—
長期借入金	6,253	4,853
退職給付に係る負債	27,619	28,885
役員退職慰労引当金	1,881	1,597
資産除去債務	454	460
その他	24,291	26,046
固定負債合計	60,509	61,844
負債合計	153,015	193,270

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,675	18,675
資本剰余金	34,243	34,243
利益剰余金	186,248	195,783
自己株式	△1,069	△1,070
株主資本合計	238,097	247,631
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,315	6,919
土地再評価差額金	△4,281	△4,281
為替換算調整勘定	△72	△132
退職給付に係る調整累計額	△6,978	△6,146
その他の包括利益累計額合計	△5,015	△3,641
非支配株主持分	24,016	24,834
純資産合計	257,098	268,824
負債純資産合計	410,113	462,095

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	324,710	339,040
売上原価	245,157	255,093
売上総利益	79,552	83,947
販売費及び一般管理費	57,765	58,430
営業利益	21,787	25,517
営業外収益		
受取利息	135	145
受取配当金	635	622
投資有価証券売却益	13	37
持分法による投資利益	636	711
その他	1,405	1,665
営業外収益合計	2,825	3,183
営業外費用		
支払利息	1,194	988
資金調達費用	227	235
投資有価証券売却損	11	42
固定資産除却損	104	201
その他	225	233
営業外費用合計	1,764	1,701
経常利益	22,848	26,999
特別利益		
投資有価証券売却益	17	—
子会社株式売却益	1	—
段階取得に係る差益	—	26
特別利益合計	19	26
特別損失		
投資有価証券評価損	221	24
減損損失	0	139
固定資産売却損	56	102
特別損失合計	278	266
税金等調整前四半期純利益	22,588	26,758
法人税等	7,789	9,034
四半期純利益	14,799	17,724
非支配株主に帰属する四半期純利益	948	1,151
親会社株主に帰属する四半期純利益	13,850	16,572



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	14,799	17,724
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,313	606
為替換算調整勘定	△58	△44
退職給付に係る調整額	1,233	818
持分法適用会社に対する持分相当額	△57	0
その他の包括利益合計	△196	1,380
四半期包括利益	14,602	19,104
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	13,771	17,947
非支配株主に係る四半期包括利益	830	1,157

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	22,588	26,758
減価償却費	11,340	11,135
減損損失	0	139
のれん償却額	1,331	1,331
貸倒引当金の増減額(△は減少)	33	△6
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	697	586
賞与引当金の増減額(△は減少)	△1,125	△973
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△53	△36
受取利息及び受取配当金	△770	△768
支払利息	1,194	988
持分法による投資損益(△は益)	△636	△711
固定資産売却損益(△は益)	58	107
固定資産除却損	104	201
投資有価証券売却損益(△は益)	△19	5
投資有価証券評価損益(△は益)	221	24
デリバティブ評価損益(△は益)	6	35
売上債権の増減額(△は増加)	7,749	4,336
たな卸資産の増減額(△は増加)	△865	△1,834
仕入債務の増減額(△は減少)	△7,315	△1,861
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	△682	△1,318
警備輸送業務に係る資産・負債の増減額	△2,664	△3,222
その他	△3,346	△2,046
小計	27,846	32,870
利息及び配当金の受取額	1,036	1,046
利息の支払額	△1,184	△997
法人税等の支払額	△11,062	△10,124
法人税等の還付額	96	66
営業活動によるキャッシュ・フロー	16,732	22,861

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の増減額 (△は増加)	△871	631
有形固定資産の取得による支出	△8,483	△8,923
有形固定資産の売却による収入	164	208
無形固定資産の取得による支出	△2,011	△4,239
投資有価証券の取得による支出	△693	△570
投資有価証券の売却による収入	829	568
事業譲受による支出	—	△28
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△1,737	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	210
短期貸付金の増減額 (△は増加)	△2	△13
長期貸付けによる支出	△35	△93
長期貸付金の回収による収入	92	53
その他	49	699
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△12,699</b>	<b>△11,495</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	7,907	2,571
長期借入れによる収入	360	460
長期借入金の返済による支出	△2,523	△2,248
社債の償還による支出	△17	△7
自己株式の取得による支出	△0	△1
リース債務の返済による支出	△2,836	△2,918
配当金の支払額	△6,176	△7,036
非支配株主への配当金の支払額	△453	△423
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△3,740</b>	<b>△9,604</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	△19
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	282	1,741
現金及び現金同等物の期首残高	40,484	43,435
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	32	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	40,799	45,177

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算することとしております。なお、法人税等調整額は法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	セキュリティ 事業	総合管理・ 防災事業	介護事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	259,094	42,520	19,962	321,576	3,134	324,710	—	324,710
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	106	34	25	166	98	264	△264	—
計	259,200	42,554	19,987	321,743	3,232	324,975	△264	324,710
セグメント利益	23,910	4,014	348	28,273	700	28,973	△7,186	21,787

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、多機能型ATM「MMK」の提供、「ALSOK安否確認サービス」、多機能型モバイルセキュリティ端末「まもるつく」の提供、セキュリティソリューション事業、情報警備事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△7,186百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに配分された減損損失はありません。報告セグメントに配分されていない減損損失は0百万円であり、その内訳は土地0百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、株式会社ケアプラスを連結子会社としたことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、1,630百万円であります。当該のれんについては、報告セグメントに配分しておりません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2019年4月1日 至 2019年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	セキュリティ 事業	総合管理・ 防災事業	介護事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	265,141	49,560	20,882	335,583	3,456	339,040	—	339,040
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	129	30	6	167	140	308	△308	—
計	265,271	49,591	20,888	335,751	3,597	339,348	△308	339,040
セグメント利益	27,104	4,555	339	31,999	822	32,822	△7,304	25,517

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、多機能型ATM「MMK」の提供、「ALSOK安否確認サービス」、多機能型モバイルセキュリティ端末「まもるっく」の提供、セキュリティソリューション事業、情報警備事業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額△7,304百万円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、第1四半期連結会計期間において、各セグメントの経営成績の実態をよりの確に把握することを目的として管理体制を見直し、セキュリティ事業及び総合管理・防災事業への収益及び費用の配分方法を変更しております。

なお、前年同四半期連結累計期間のセグメント情報は、当四半期連結累計期間において用いた報告セグメントならびに収益及び費用の配分方法に基づき作成したものを開示しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

報告セグメントに配分された減損損失はありません。報告セグメントに配分されていない減損損失は139百万円であり、その内訳は土地127百万円、建物11百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期連結累計期間において、京阪神セキュリティサービス株式会社を連結子会社としたことにより、のれんの金額に重要な変動が生じております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、138百万円であります。当該のれんについては、報告セグメントに配分しておりません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。